

研究分野のキーワード：日本史、古代史、制度史、地域史、史資料論

研究紹介

日本史の、主に平安時代初期以前の古代史について、主に文献から研究しています。

日本史は小学校・中学校で必ず習いますし、高校でも日本史を学んでいる学生は多いはずです。何よりも自国の歴史ですので、知らない間にいろんなことを見たり聞いているかもしれません。また、近くに神社や寺院があり、ひよっとすると古墳や遺跡が身近にあり、関心を持っている人も多いかもしれません。

とりわけ二〇一〇年は平城京遷都一三〇〇年ということで、大いにマスコミに騒がれました。何より大極殿の復元は、大きな目玉で平城宮のこれまでの景色を一変させました。まだ見ていない人は、是非ご覧になってください。映画のセットのようですが、特別史跡の中にたてられた復元建物ですので、慎重な復元作業が求められました。当時写真などありませんから、基壇などは発掘遺構や瓦や石の分析、また大極殿が移築された恭仁宮の大極殿の遺構、それから『続日本紀』や『年中行事絵巻』などの文献史料・絵画資料などが手かかりとされました。問題は不明な上部構造で、同時代の寺院金堂の形式から重層建築とみなし、現存唯一の重層金堂である法隆寺金堂、それに組み物や軒の形は薬師寺東塔にならったといえます。

このように、今から約一三〇〇年前の物事の復元というものは、考古学的遺物がある場合でもなかなか難しいものがあります。古代史の研究といっても、いろんな分野に枝分かれしていますが、私は古代制度史に興味があり、奈良時代官制の二官八省と呼ばれるうちの神祇官の研究をしてきました。もう一つの太政官は政治をつかさどるので有名ですが、神祇官のほうは神祇祭祀を担当する官なので、あまり学校教育でとりあげられることはありません。しかし、古代官僚制度の中で神祭りをおこなうというのは、官僚制度が合理性を重んじる組織の中で極めて特異です。実は日本の律令制は中国の律令制をベースにしていますが、中国にも同じような皇帝祭祀を掌る官職があります。それに倣ったものですが、やはり歴史・風土などの違いで、祭祀の中身に関しては日本独自のものが多いです。そのような神祭りのシステムを利用して、古代の国家や天皇は何を行おうとしていたのか、その構造や歴史を明らかにしようと研究しています。これは現在の天皇が宮中で祭祀を行っていることにつながる、天皇制を考える上で重要な問題だと考えています。

それと、近年では東海地方の地域史の研究も行っています。ここ愛知県は古代では尾張国と参河国の二つからなっていますが、両国の成立・展開の歴史や遺物・特産物の研究を行っています。自分たちが生まれた地域や国の歴史を知りたいと思うのは、人間の根源的な欲求かもしれません。ゼミ生と一緒に、少しでも史実を明らかにしたいと思っています。

